源氏物語ひとすじ　完

稱意館蔵本

源氏物語ひかりあるら

宇治大納言物語 第弐部 未

門院さぶらひゆゝしのものがたりしてゆ

ずりさしぬべき物語やはたづねもと

せるひきれど侍さしとゝとゝ出たるもの

いつもなるまゝすべきもの程

第弐部 ゝるめられ 始しあるしく

九曜文庫

作りてまゐらせたるものを、なれどさこそハつく
もと作らせもれハ作りてまゐらせつりける
いろ〳〵んぞせもぐしもてめてこそ作り
又云いまハむかし〳〵神前の物ときこえ侍
まやさ〳〵ぐもるくハ東宮の親ぎりの物
唄ぐ御ハ作りこるの事どもこそ
もすめこうせうけるとぞ前世説話ハ
ちのをきらめしてもものをのりまろ

初てまゐりける物内の御所ハ関白殿などいふ
ものをもせさせのるべきとぞきさせのひて殿の
中させのひをもたぐ〳〵殿ハ
ものをせ給ふ思ハ手ものひみえさせ給ひ
きりせさめづしこうきて事といひのこ
つきもう武部かあうの殿うめぐる事とと
作りいぐこうる人とものえぐ学こきめ
こうるぐぐ屋ぐひもてる事ハとあや

うんとかきあげおくべき作なれば源氏作ることの
さ様〳〵さま作へうまれつて後〳〵作ることの
ときもいづれもまめとあるべんん
按此紫式部の源氏物語作ることの物語
どもおほきまゝ多く後どもに見えて後世
後どもに後の後世紫式部の作たりしの
あるべき伝〳〵なれば後世物語作る
ふる紫式部もまた後にいづれもまめとあるんと

あるべきさだめなるべぬ事なるを後の物語ども
ふたしかに詳ならぬ人作ばかりなし

○紫式部源氏物語作ることの有山なる所
て湖水に月をながめて作ることを人に後廣
明石の浦を思ひやりて先後廣安に二月
参詣して作りて後世に届ることと
物語ども多く後世に新院
ふるき書にも見えず たしかなる説なし

作ばかりし今も石山寺に武部の源氏とて
あるとり居しかるとき源氏の間ちや名をよび
武部の源氏物語書し現をなるりとて古事現をを
うれ事作へとあるといへとそれ寺に縁起
霊宝などいふ物ともをたくさんとして
作法をよりかかとして あるぬそう事を作りて
花物ちるとふ記おばつるきうつて物ちるを
物としてそ事おかれ

源氏乃間を現を作ばかりし

○武部の源氏物語うんとて石山なるとこしの
物語うん料紙のうつ しまりて仏前に
あるし本紙巻物をならべしてそれを物語を
書しと云て物物どもを見えれど是を示
作ばかりし上東門院の御をけるとして物語
作を宮を作しそれとまるるれ
寺にあるし 部乃物をこそまるるとも

めの物語りなんとも〇とする料紙をとりまきて
やはあるべきとそしもとりまきたるんとは京へまう
さたらは又は本伝とまひ歩むるもうかしし
仏を経のうちに書くるあるんまた弥陀が
世にあるしたはとりて下にまきて其ことこ
えて仏法に物ぐるして仏を書くともうるし
うまし世のあるさまなるしはて弥陀如来
ゆくいくらもなれたる経を書きけるを書を

すべき是亦古書みを見えたる法華経行法
をも伝ひ伝ひ或説に弥陀の本願の
に物語りと云ハ宗ハたるあるべく乃物語りを
をとてはあるハ好色のうをあるハ菩提乃
道をもとめ物乃義をかくして書けり煩悩即
菩提色即是空空即是色の理を語りたんの
為の物語なる本願をたのしてして書
とひとりの人とい是を亦伝ひ

是ハ源氏物語ハ好色を専に
する物語なるゆへ此物語を好まむるを人乃
たりあらけらん事をかなしみて
もんが為に菩提の道に入しめん為に方便を書
るやと詞をかざりて曲説を作りおもしろ
源氏物語の物語の説ハ観音乃化身
て衆生済度為に源氏物語を作り表に好色
事をあらハし裏に煩悩即菩提色即是空理

を示すに仏道をもてあ為ん為に観音乃大慈
大悲なるゆへ六道に化身し給ふ
又平康頼が宝物集ハ第三部ハ地獄
をんて源氏物語を作りしゆへ地獄に堕て苦
患をうけるとや源氏を焼て一日経を書て
ゆへ人の苦を免るとあり観音の
化身とひ地獄に落るといふ善悪黒白の如
此の説是人の為に惑ふて観音化身なるハ

地獄に落るなるべし地獄に落たる人は親者
乃紀者にて人をべらべらぶ これらは根なしごとも
世界なる為にもべらぶ源氏物語はたすけ小と京
らぶ行れ用るとも者べらぶ 信者
源氏物語は女の作る物とはいひながら全く倫乃教
好色婬乱おして正しかるべきをもつけり 光源氏
継母の為毒の為に密通し源氏の流を懐妊して
男子を産て父帝是を知らずして太子として

後に光孝即位あり是を継母と通じ臣と
して我子を帝位に即しむ父子君臣の道乱
る又源氏を臣紀氏の家に有りしかば又伊勢物
語毒を毒せり君として臣の妻を犯す礼を無
らず又朧月夜の内侍のかぶ源氏の兄帝寵妃の
如きを源氏密通せり又女三宮は源氏の兄帝乃
姫宮にて源氏の為に姪なるを源氏密通せり古
聖乃教人倫の大道乱れ不義不礼いとゝかた

むかしの物語ハ人の教訓の為に書しものにハあ
らずそらごとをあることゞもかくまゝに作りなせる物な
れバ好色の事ハいふもさらなりさればこそ
事ハともあれかくもあれ人倫の道を乱り不義不
礼の事共を書すともそれハ好色の風流いふばか
りを作りなせしものなれバ教のあるべきやうもなく
て人倫の道を乱り不義不礼の事どもをのみ書し
ハ紫式部女なれどもとても物語書くなどの大智なる

人ハ似合ずいとをしむべき事なれども源氏
物語の口釈に父子君臣兄弟なども此国ありとも
関係あるべき事なるを得ずとハいひがたきなる
んなるやいはんかし

源氏物語の手習字記傳詩文などを書きてなる
ともあり偽書を似て書もあり女とハ賢しくあり
きなりとやうにいふ人もあれども一條院御代にハ学文
盛なりしかバされども徳行の学ハあらずて記誦

詩章乃学をもてあそびかしこくうるはしくてすのも
やはり風俗なりしかは性聰敏なりしかは幼か
乃時より父母の教へ習はせ給ひ男文学をと給
ふゆゑ習ひしめべしもとより第弟の心ざしも法か
細やかなれども学問ある女房あまたいの名をとて
も儒士のもとめをうけ学問あるも女なりと
て幼きより書ある如ハ能く文学ある如ハ能く 文学
を尊ぶ[illegible]ハ第弟を[illegible]ハ又

一仏法の衰ハ儒学よりも又一き
ハ盛ん[illegible]天下より賤上下ハ仏道を溺し[illegible]
ハ如を儒を師として仏徒をよく[illegible]也
第弟文学あるハ国[illegible]
源氏物語の中禁中乃年中行事を所[illegible]
装束の事[illegible]多く言を摘[illegible]
[illegible]常に見る事ども
[illegible]

あらず源氏物語は長くとろくれば公事と称してこれ
世にいまだ源氏のおもかげを書くとて今の世知れるべき
事を古書より捜り得て仏をこしらえしめ法華の経
三部まで書けりと感じたる仏法
を人々や今とても常に見るを書いとやはし
源氏物語の詞をすぐれたるかたとも
人あるべしさはあらずみな物語の詞をもって作
詞を作る為詞所なりとなり

むかしより作者物語などの詞を
所きき詞なりさればいとあるべき事とおぼえ詞
多くはずして源氏の詞をもって此の俗語をもて又如詞
まじるるや男女物語あるべき正しく記
詞ふあるべきたとへばあるべきことをあ
べいとも云べきとも云べきとも云べきとも云べきとも云べきとも云
を用ゐるべしとまれとも云べきとも云べきとも
云べきとも云べきとも云べきとも云べきとも云べきとも云べきとも

さればとてそをさしていひ。されどあれとこそさだめねども
はまれなるといひ。これらぞといふことばともなくみと
もえぬる形也又其ありさまのことをいふ詞なりしきまとへど
ゆかしく思ひきこえ給ふ。内侍のかみなりしに。ん
をとせきこえ給ふ。めしきこえの給ふ。さいの上もなく
きこえさせのひてめ。の形やきこえていふ詞なりすずして
もあるべきを何事もきこえなどいふハ
皆今このごろの俗語也。正しき詞ハ雅語也。正しから
ざる詞ハ俗語也。今此世の人の此所にいひならはざる俗語を
雅語なりとしれり。あやまりのはなはだしきなり。さて文章書
くことハ必源氏物語の詞をまなびて書く。人あるひは女の
文章とハいはれけれども男の文章とハ似つかはしからず
ず。相こゝろすべし。男の文章ハ経史子集の序
大井河行幸の和歌の序などこそ飾あれ
源氏物語のすぐれたる事ハ文章の婉約なるより
実ありて風景をうつし。人情を述べたるところ。頗

とけたるを浮うり

○[illegible]を書る源氏物語をいふもまぎらしき也
まで[illegible]源氏の行末をもれざるやうに書るいと[illegible]
しろしゝ和くいぼれの翁人時さうと古方してまぎ
らしき也さてもてなるをじめ和りさぐらるぬく
てこ敷まけれ言うるれば也れこもありて文字書ハ
物ろうハまぎらしき也さてもてなるを先ろもの
まこそ[illegible]句ふ言うる長屋つれ

人清と作りて人生ろうハ安あるやいとうるがし
ろうて

安永十年辛丑正月廿四日　伊勢平義貞丈記

文化九壬申歳廿六日写畢　源宗悟